

ビーシーシー

薬品の在庫管理システム 薬剤師の業務負担を軽減 「ODSS」の提案を開始



三菱電機(株)の連結子会社
で、システム開発業の(株)
ビーシーシー(福山市光南

町3-6-10、金川仁士社長、電084・921・2475)は、薬剤の在庫や有効期限などの情報を一括管理し受発注を円滑化するクラウド型システムの販売を始めた。人手不足の中、医療機関での薬剤師の業務を軽減するシステムとして導入を提案する。

医薬品卸売業の鍋林(株)(長野県松本市)のシステムで、処方箋など薬剤の在庫をクラウド上で管理すること、薬剤師ら医療スタッフは円滑な受発注ができる。

システムでは、BCP対策をしたデータセンターで情報を管理するなど、セキュリティ面も充実させた。システム名は「ODSS(オーディーエスエス(Old System Saver))」。

既存システムの老朽化や古いシステムを扱える人材が退職して、最導入した医療機関で、最大で年12兆円の経済損失が出る懸念の「2025年の崖」を控え、中小規模の薬品卸売業者では販売する薬品管理システムの適用が遅れるとされており、同社で

は商機と捉えた。システムは50-200床の医療機関向けに提案し、利用は月額2万円から。初期費用は別途30万円で、初年度10医療機関の導入をめざす。

同社は「システムを切り口にセキュリティ対策やネットワーク構築も提案するなど、医療機関のニーズに応えたい」と話した。